

市長コラム

～今こそ地域連帯～

Vol.25



今冬は昨年に比べて降雪量が少なかったものの、1月下旬の記録的な大寒波や燃料費、電気料金の高騰により、市民の皆さんは大変厳しい冬を過ごされたことと思います。

去る1月25日、総務省にて尾身朝子総務副大臣に面会し、豪雪による影響や西北五圏域の医師不足の実情等について意見交換し、財政的な支援等を要望してきました。

春の足音を感じる季節はもうすぐですので、あと一息、頑張っこの冬を乗り切っていただきたいと思います。

★令和5年度当初予算編成に当たっての所感

このほど令和5年度の当初予算案がまとまり、編成に当たっての私の所感を申し上げます。

まずもって、今回の予算編成は、私が市長に就任以来、最も厳しいものとなりました。その要因としては、燃料費の高騰による公共施設の維持管理費等の経常経費の増、人件費、扶助費等の義務的経費の高止まりなどさまざまありますが、最も大きな要因が公債費、いわゆる建設事業等の実施に伴う借入金（地方債）の償還です。

地方債の償還は、借入年度からおおむね3年の据置期間において元金の償還が始まるため、平成30年度以前の借入の返済により、ここ数年は公債費の高止まりが続いており、特に、令和5年度（約47億円）から令和7年度（約48億円）にかけて市債の償還のピークとなります。

加えて、昨年の記録的豪雪により、除排雪経費は10億円超という過去最大の財政支出に伴う財政調整基金の大規模な取り崩しを行い、また、今年は昨年に比べて降雪量は少ないものの、市民生活が停滞することが無いようきめ細かな除排雪を行い、7億円を超える経費を投じました。

このように多くの要因が重なり、非常に厳しい財政状況にあります。決して市民サービスの低下を招いてはならないという認識で、今までの役所の常識を根本的に見直し、これまでにない厳しい姿勢で予算編成を行いました。

言うまでも無く、市の歳入の大宗は市民の皆さんからの税金であり、職員すべてが自らの家庭と同じ感覚でコスト意識を持つよう徹底するとともに、すべての事務事業につ

いて前例や慣例にとらわれず、市民生活にとって真に必要な事業の選択と再構築に注力しました。

新年度予算では、冬期間の除雪作業の負担軽減に資する消融雪設備の整備や高校生まで通院・入院の医療費無償化の拡充を検討したほか、地域公共交通の再編など、市民生活に密着した事業を優先的に考慮しました。

今回の予算編成により基金残高の落ち込みは避けられず、今後、災害等を考慮すれば薄氷を踏むような財政運営を強いられる状況ですが、人口減少や社会情勢の変化など多くの課題が山積する中、私は、将来につけを残すような行政運営は決して許されないという決意のもと、今こそ行政そのものが変わっていかねばならないと思っています。

「パブリックマネジメント（公共経営）」の理念を取り入れながら、強力に行財政改革を進めるとともに、官は官、民は民の縦割り概念を打破し、市民と行政が主体性を持ってそれぞれの役割を果たしつつ連携を深めていくことが、持続可能な地域社会の構築には不可欠であると考えます。

今後も厳しい財政状況は続きますが、事務事業においては「選択と集中」を徹底し、市民からの行政に対するご意見やご批判も真摯に受け止めながら、市民協働による市政運営に、より一層まい進していきたいと考えています。

★市の入浴施設、75歳以上の市民は無料に！

大規模改修のため休館していた「生き生きセンター」が、2月2日にリニューアルオープンしました。4月からは「生き生きセンター」および「川倉の湯っこ」で75歳以上の市民の利用が無料になるほか、共通のお得な回数券を新たに販売し、市浦地域にオープン予定の「にっこ温泉うら」においても同様にご利用できます。「にっこ温泉うら」は資材調達の遅延によりオープン時期がずれ込み、待ち望んでいる方には申し訳ありませんが、オープンまで今しばらくお待ちいただきますようお願いいたします。

各施設とも、地域に愛されるより良い施設となるように努めてまいりますので、多くのご利用を心よりお待ちしております（3、7ページ掲載）。



「尾身朝子総務副大臣に対する特別交付税要望」の様子



「令和5年度当初予算案市長ヒアリング」の様子